# 2014 年度 後期

# 授業改善アンケート調査結果

## 大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

# 授業改善アンケート調査結果

## １．授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2010 年度後期より、KOAN 上でのアンケートになったが、2014 年度前期以降、再び授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更した。実施期間は以下の通りである。

2014 年度後期アンケート回答期間：2015 年 1 月 13 日～2 月 2 日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義科目である。対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は 68.5%であった。（2014 年度前期：70.1%）

**2014 年度後期授業改善アンケート　対象科目数･回答数**

| | | 対象科目数 | 回答数 |
|---|---|---|---|
| 共通科目 | | 1 | 13 |
| 基礎科目 | | 5 | 524 |
| 学部科目 | 行動系科目 | 13 | 480 |
| | 社会系科目 | 10 | 415 |
| | 教育系科目 | 11 | 407 |
| | グローバル系科目 | 4 | 66 |
| 大学院科目 | | 32 | 163 |
| 計 | | 76 | 2068 |

回収数 2068／受講登録者数 3021＝回収率 68.5%

※1 基礎科目は、行動・社会・教育・グローバル系科目に割り振られている。
2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに 2010 年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

## ２．授業改善アンケートの結果

2014 年度後期の授業改善アンケートは、2014 年前期から引き続きマークシート方式を採用した。今回の回収率は 68.5%と、2014 年前期の 70.1%からは僅かに減少がみられるものの、KOAN でアンケートをしていた時期に比べると、各段に良好な水準といえる。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する) については、3.90 であった。同年の前期（3.96）と比べても、学生の授業への満足度は一定して高いといえる。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 74.9%（2014 年前期 87.5%）と、多数の学生が授業に参加しているものの、前期よりも出席率は低下していた。また、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に関しては、「ほとんどなし」が 68.2%を占めていた（2014 年前期 54.7%）。予習・復習時間の少なさは、同年前期でもみられたが、後期は前期よりもさらに自習をしない割合が増えていた。問 4 の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は、2014 年前期に 3.64 であったのが、後期では 3.51 へとわずかに低下していた。

前期と後期とでは開講科目が異なるため、単純な比較はできないが、出席率や自習時間を増やすための働きかけをもう一度見直し、授業の理解度の維持、向上について検討することが望ましいであろう。

シラバスについての問 5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対して「そう思う」の割合は 55.1%（2014 年前期 53.9%）と前期からやや改善がみられたものの、問 6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「そう思う」の割合は 60.8%（2014 年前期 64.5%）と、前期より低下していた。

問 8 の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は 3.81（2014 年前期 3.84)、問 9 の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は 3.73（2014 年前期 3.76）であり、前期から一定して高い値となっていた。

以下より、2014 年度後期の授業改善アンケートの結果の詳細を示す。

１．全体集計

２．学系別集計

※・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。

・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・グローバル系科目に割り振られている。

・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。

・各学系によって 1 科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

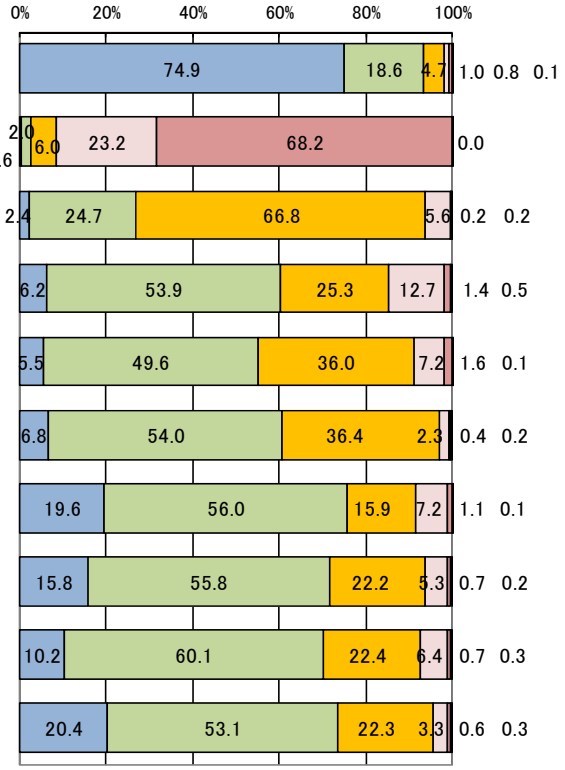
授業評価アンケート

大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
2014年後期

# 全体集計

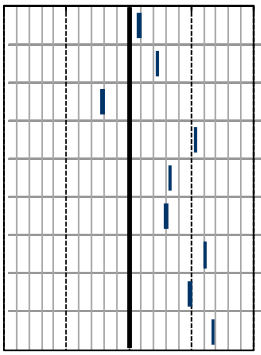
| 履修者数 | 3021 |
|---|---|
| 回答数 | 2068 |
| 回答率 | 68.5% |

| 番号 | 内容 | 全体平均 |
|---|---|---|
| 1 | この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？ | 4.66 |
| 2 | この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？ | 1.43 |
| 3 | 授業内容の難易度はどうでしたか？ | 3.23 |
| 4 | 授業内容はよく理解できましたか？ | 3.51 |
| 5 | 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？ | 3.50 |
| 6 | 授業はシラバスに沿って展開されましたか？ | 3.65 |
| 7 | 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？ | 3.86 |
| 8 | 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？ | 3.81 |
| 9 | この授業で学問的知識が身についたと思いますか？ | 3.73 |
| 10 | この授業は全体として良い授業だったと思いますか？ | 3.90 |



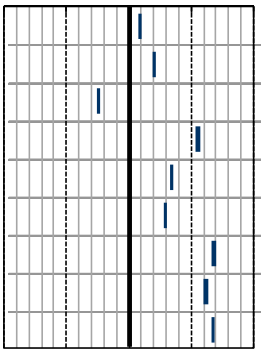

グラフ内数字は回答率（%）

## 【Q9との相関】




| | | 相関係数 |
|---|---|---|
| Q1 | 出席率 | 0.084 |
| Q2 | 予習・復習の時間 | 0.232 |
| Q3 | 授業の難易度 | −0.210 |
| Q4 | 授業の理解度 | 0.538 |
| Q5 | シラバスの内容 | 0.334 |
| Q6 | シラバスとの整合 | 0.300 |
| Q7 | 興味・関心 | 0.614 |
| Q8 | 授業方法と資料 | 0.492 |
| Q10 | 総合評価 | 0.673 |

## 【Q10との相関】

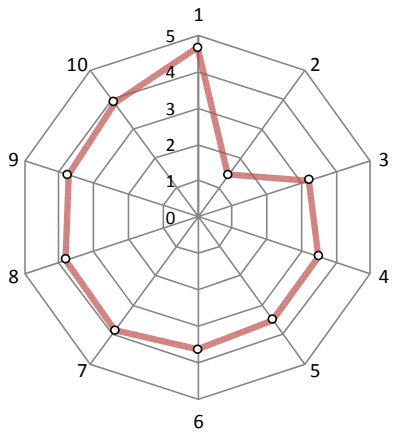



| | | 相関係数 |
|---|---|---|
| Q1 | 出席率 | 0.089 |
| Q2 | 予習・復習の時間 | 0.203 |
| Q3 | 授業の難易度 | −0.244 |
| Q4 | 授業の理解度 | 0.556 |
| Q5 | シラバスの内容 | 0.344 |
| Q6 | シラバスとの整合 | 0.297 |
| Q7 | 興味・関心 | 0.682 |
| Q8 | 授業方法と資料 | 0.617 |
| Q9 | 学問的知識 | 0.673 |

| 回答凡例 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 配点 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | − |
| 質問1 | 80%以上 | 60～80% | 40～60% | 20～40% | 20%以下 | 不明（無回答を含む） |
| 質問2 | 3時間以上 | 1.5時間～3時間 | 30分～1.5時間 | 30分未満 | ほとんどなし | |
| 質問3 | 難しすぎる | やや難しい | 適切 | やや易しい | 易しすぎる | |
| 質問4～9 | 強くそう思う | そう思う | どちらとも言えない | そう思わない | 全くそう思わない | |
| 質問10 | 非常に良かった | まあ良かった | 普通 | あまり良くなかった | かなり良くなかった | |

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「−」は計算不能を示します。（例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど）

## 【質問別得点】



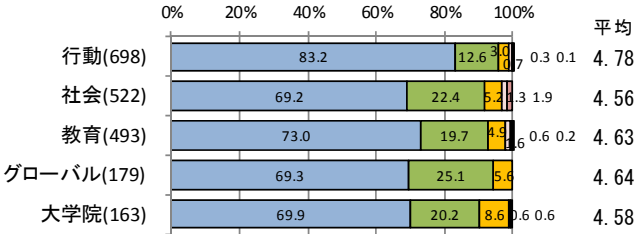
大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート　2014年後期

# 学系別集計

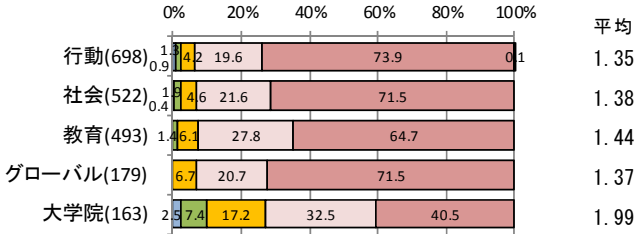
※グラフ内数字は回答率（%）

| 回答凡例 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 配点 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | － |
| 質問1 | 80%以上 | 60～80% | 40～60% | 20～40% | 20%以下 | 不明（無回答を含む） |
| 質問2 | 3時間以上 | 1.5時間～3時間 | 30分～1.5時間 | 30分未満 | ほとんどなし | |
| 質問3 | 難しすぎる | やや難しい | 適切 | やや易しい | 易しすぎる | |
| 質問4～9 | 強くそう思う | そう思う | どちらとも言えない | そう思わない | 全くそう思わない | |
| 質問10 | 非常に良かった | まあ良かった | 普通 | あまり良くなかった | かなり良くなかった | |

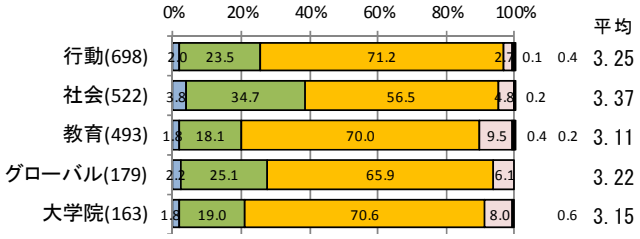
## 1．この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



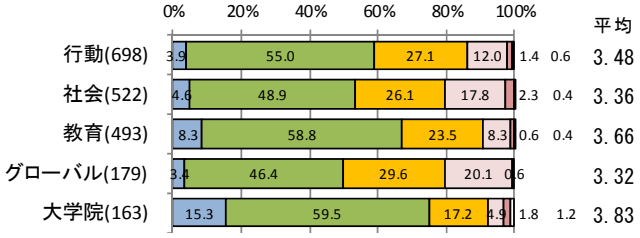

## 2．この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



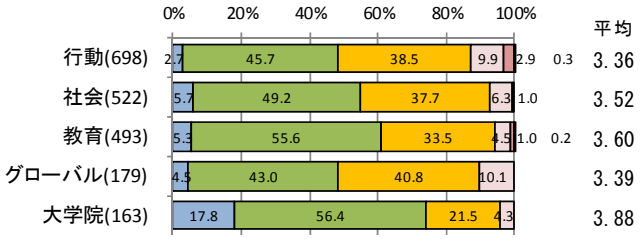

## 3．授業内容の難易度はどうでしたか？



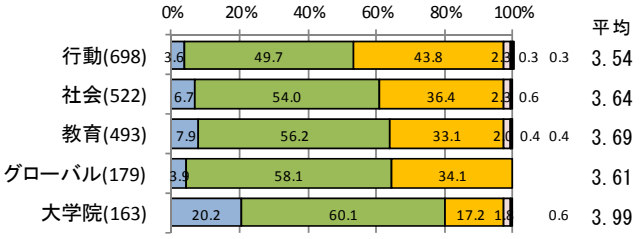

## 4．授業内容はよく理解できましたか？



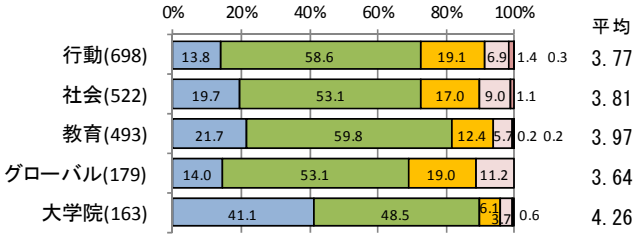

## 5．授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の 内容を知るのに役立ちましたか？



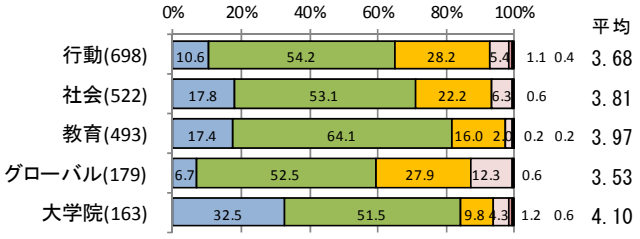

## 6．授業はシラバスに沿って展開されましたか？



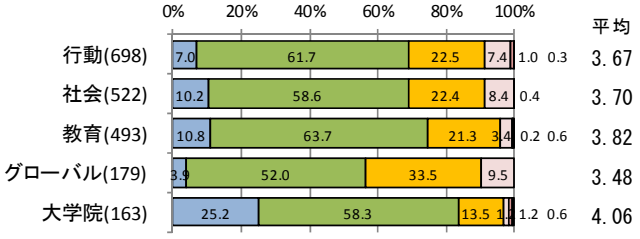

## 7．授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



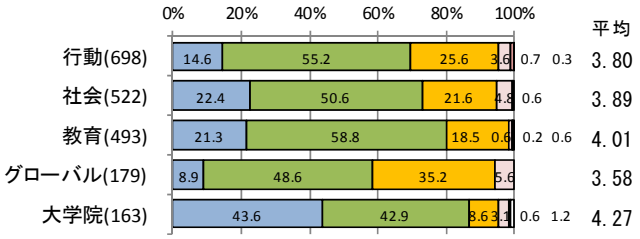

## 8．授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？




## 9．この授業で学問的知識が身についたと思いますか？




## １０．この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ)。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 76 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 42 科目であり、平均値 3.95 を上回ったのは 20 科目であった。

**2014 年度後期講義科目**
**満足度上位の科目一覧**

| | | 有効回答数 | 問 10　平均値 |
|---|---|---|---|
| 1 | 臨床心理学特講 II | 13 | 4.85 |
| 2 | 社会科・公民科教育法Ｂ | 13 | 4.69 |
| 3 | コミュニケーション社会学 | 57 | 4.60 |
| 4 | 教育工学 Ⅰ | 19 | 4.47 |
| 5 | 霊長類心理学 | 27 | 4.41 |
| 6 | 臨床死生学・老年行動学 | 20 | 4.40 |
| 7 | 教育コミュニケーション学 Ⅰ | 51 | 4.31 |
| 8 | 生物人類学 | 19 | 4.26 |
| 9 | 経験社会学 | 29 | 4.24 |
| 10 | 臨床心理学 Ⅰ | 31 | 4.23 |
| 11 | 基礎心理学 | 57 | 4.19 |
| 12 | 比較福祉論Ⅰ | 16 | 4.19 |
| 13 | 教育心理学 Ⅰ | 43 | 4.16 |
| 14 | 教育人間学 Ⅰ | 34 | 4.15 |
| 15 | 人類学理論 | 60 | 4.10 |

## ３．担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である（教員名の五十音順に掲載。非常勤講師は除く）。

| 青野　正二 | 環境心理学 ・ 環境心理学特講 I |
|---|---|
| 今年度は、昨年度に比べて、回答率（回答数も含めて）が 2 倍に増加したため、各回答番号の平均値なども信頼性の高いものと思われる。また、受講生の学科目別の集計結果には、全体的に大きな偏りは見られなかった。回答率を見ると、回答番号 2（授業内容の難易度）では、「適切」が最も多く、次に「やや難しい」となっている。回答番号 3（授業内容の理解度）では、「そう思う」が最も多く、次に「どちらとも言えない」となっている。これらの傾向は、昨年度と比べて逆転していた。この要因としては、昨年度に続いて、少しずつ授業内容の各項目に割く時間配分などを難易度に応じて変更したことが考えられる。ただし、平均値を見ると、難易度については、「やや難しい」の方向へ振れているため，まだ改善の余地があると思われる。例えば、記述式回答には、使用する教材への工夫について触れていたものがあり、来年度への課題としたい。 | |

| 足立　浩平 | 多変量統計科学 ・ 行動統計科学特講 I |
|---|---|
| この授業のように，数学をベースにした授業はどうしても難解になりますが，わからないことがあっても気にしないことが肝心です．原理のイメージをおおざっぱにとらえていれば，大丈夫です．<br>英語テキストを書き進めながらの授業ですので，2015 年度は，より充実化できる予定です． | |

| 渥美　公秀 | ボランティアの集団力学 ・ ボランティアの集団力学特講 |
|---|---|
| 熱心に講義を受けてくれたという印象がありますが、以下の点に工夫をしたいと考えています。<br>〇配布資料を準備する。<br>〇出席点を評価の一部とする場合に、出席は毎回とる。<br>〇受講生にミニレポートを課し、その内容をもとに双方向のやりとりを取り入れる。<br>〇もう少し高度な内容についても十分に理解してもらえると感じたので、全体の構成を工夫して取り入れることにする。　以上です。 | |

| 石川　真由美 | 社会変動論 ・ 社会変動論特講 |
|---|---|
| 予習・復習に時間はかかったけれど、授業は難しくなかったという意見は嬉しいです。よく課題をこなし、最後まで頑張ったと思います。 | |

| 稲場　圭信 | 現代社会学 ・ 現代社会学特講 |
|---|---|

授業では一切レジュメを配布しなかった。「必死になってノートをとってください」と授業の始めに受講生に伝えたのだが、その通り、皆さん熱心に授業を聴き、ノートをとってくれたと思う。受講生からは、「レジュメを配布しないことにより、さらに理解度が深まりました」という嬉しいコメントもあった。

様々なトピックで講義をしたが、そのつながりも受講生自身が感じ取っていたようである。

一方で、集計結果を見ると、予習・復習の時間が極端に少ない。改善すべきか、あるいは自主性に任すべきか。今後の課題としたい。

| 臼井　伸之介 | 安全行動学 ・ 安全行動学特講Ⅱ |
|---|---|

履修者数 55 名で、回答数が 46 名（83.6%）ということで、アンケート集計結果はほぼ履修生全体の意見だったと真摯に受けとめたいと思います。結果は数値が大きいほどポジティブな結果であることが明瞭な項目（番号 2、3 以外の全ての項目）において、全体平均および行動学系平均よりも全て値が大きかったので、それなりに評価は高かったものと解釈しました。ただ、番号 7（授業内容は興味関心持てるものだった）、番号 10（全体に良い授業だった）の両項目ともに、評価を 5 とした人が全体の 10%前後だったので、このあたり次年度は倍くらいになるように授業内容や方法を工夫したいと思います。

項目最後の自由記述を書いた人が 1 名のみであり、履修生からの具体的な要望をもう少し知りたかったです。ただ、授業最終日のアンケート解答時間が少し足りなかったせいかもしれないので、このあたりも次年度は配慮するようにしたいと思います。

| 老松　克博 | 臨床心理学特講 Ⅱ |
|---|---|

非常に臨床的な内容の授業なので，受講者の皆さんの負担はかなり大きかったのではないかと思うが，たいへん熱心に取り組んでもらえて，とてもありがたかった。

授業評価アンケートの結果を見ると，予習・復習をするための課題のようなものを明示することを考えないといけないように思われる。ただ，率直に言うと，そうすることへの逡巡も感じる。というのも，この授業で扱い，問いたかったのは，むしろ予習や復習をやりようのない何かだったからだ。

臨床の現場で遭遇する 1 回性の強いできごとには，予習が役に立たない。しかしまた，そうしたできごとは，１回きりのことであるにもかかわらず，いつか「あれ，たしか，これに似たことに前にもどこかで出会ったな」と感じながら再会するような，ある種の普遍性を持っている。受講者の皆さんが将来，現場でそういう感じを抱いたときにこそ，この授業を思い出して復習してもらえればと思う。

| 大谷　順子 | 地域研究特講 |
|---|---|

今後も受講生たちのニーズを考慮しながら、各受講生の研究に役立つ授業にしていきたいと思います。

| 岡部　美香 | 教育人間学 Ⅰ・ 教育人間学特講 Ⅱ |
|---|---|
| かなり抽象的な理論研究の話を展開したのですが、十分についてきてくれましたし、毎回のコメントも、こちらにとっても刺激になる内容が含まれていて楽しかったです。 | |

| 苧阪　満里子 | 認知脳心理学 ・ 心と脳の科学特講Ⅰ |
|---|---|
| 講義で使用したスライドの図などが理解に役立った報告されているが、ノートに書くことが難しい図もあり、配布を希望する受講生もいた。その点を配慮したいと思う。<br>また、レポートなどを数回にわたり提出を求めたが、この講義のための予習復習に当てた時間が少ない結果であった。もう少し、レポート回数を増やすことも再考できる。<br>授業の内容理解はよくできている結果でよかったと思う。 | |

| 金澤　忠博 | 比較発達行動学 |
|---|---|
| 月曜朝 1 限の授業で寒さが厳しくなる中、大勢の学生さんが受講してくれました。毎回講義の終わりに書いてもらった感想&質問の用紙にはいつも多くの質問が寄せられ､次の講義の最初に 30 分前後かけてコメントや回答をするという形式でしたが、鋭い質問も多く刺激にもなり毎回読むのが楽しみでした。ただ講義を聴くだけでなく考える姿勢が大切ですので今後も続けたいと思います。<br>人間や動物の行動様式や認知様式の発達に関わる動画は理解を深めるのに役立つという感想も多く、今後もできるだけ取り入れたいと考えています。配付資料は文字が多く膨大な量になってしまっているので、徐々に整理していきたいと考えています。 | |

| 河森　正人 | 動態地域論 Ⅱ ・ 動態地域論特講Ⅱ |
|---|---|
| リアクションペーパーに対するフィードバックをより充実してほしいとのコメントがあった。次年度の課題としたい。また、事前に次の授業の簡単な内容を教えてほしいとのコメントがあった。これについては、基本的にシラバスで対応できると考えているが、各授業の最後で、次回の内容および当該授業とのつながりについて簡単に紹介するということを考えてみたい。 | |

| 吉川　徹 | 経験社会学 ・ 経験社会学特講 |
|---|---|
| 授業の目的が知識と技法の習得なので、それに特化した専門的な教育だけをすることを求める声があるようです。<br>あまり余計な雑談はするなということでしょうか。次年度以降は検討します。<br>肯定的なコメントも励ましになります。ありがとうございました。 | |

| 釘原　直樹 | 集団力学 ・ 社会心理学特講Ⅱ |
|---|---|
| 本講義の質問別得点の得点パターンは、全体平均のパターンとほぼ一致しており、学生には普通の講義と見なされていたことがうかがえる。予習・復習の時間が本講義を含めて全体的に少ない（講義科目の場合は無理があるとも思えるが）のでこの点に関して改善の余地があるかもしれない。 | |

| 熊倉　博雄 | 生物人類学 |
|---|---|
| 板書を書きとる時間が少ないとの意見を複数もらいました。以前に、板書相当分をプリントして配布したこともありますが、そうすると講義の雰囲気がだれてしまうので、現状ではスクリーンに映写したものを、時間をとって書き取ってもらっています。ただ、筆記の速度に個体差があるので、どうしても書ききれない人がでてくるようです。板書時間の空白時間帯を長くとれるように工夫するように努めます。 | |
| **熊倉　博雄** | **生物人類学特講Ⅱ** |
| 修士の講義なので、できるだけ受講者が必要とする知識・技能を身に着けられるようオーダーメード型の講義にしています。その点についてシラバスの記載が不十分な面もあるかもしれませんが、おおむね好評なようですので、今後も可能なかぎり、現在の方式を続けていきたいと思います。 | |

| 近藤　博之 | 教育と社会 |
|---|---|
| 最終試験の平均点は 54 点（最高点 97，最低点 14），標準偏差は 18.8 点でした。出席回数の少ない人は総じて試験の出来がよくありませんが，出席回数の多い人でも成績にかなりのばらつきが見られました。授業の内容に興味がもてた人と興味がもてなかった人の違いが大きかったようです。受講生からの指摘を参考に，授業方法をできるだけ改善していきたいと思います。 | |
| **近藤　博之** | **教育動態学 ・ 教育動態学特講** |
| 授業の内容が「やや難しい」という評価をもらいました。分からないところは，その場で直接訊いてくれたらよかったのですが，そういう雰囲気ではなかったのかもしれません。今後，コミュニケーションの機会を増やすなどして，難易度を落とさずに，より多くの人が興味をもち，かつ理解が深まるように工夫していきたいと思います。 | |

| 斉藤　弥生 | 比較福祉論Ⅰ・ 比較福祉論特講 Ⅰ |
|---|---|
| 学部２回生から大学院生が受講する講義であり、内容によっては「２回生にはちょうどよいレベルだが、大学院生には易しすぎる」、「大学院生にはちょうどよいレベルだが２回生にはやや難しい」という回がある。その点については、授業の前に予告するようにしていきたい。ポートフォリオシートの内容も授業の回数が進むにつれて、書き方に上達がみられた受講生が多かったのは一つの成果と考えている。 | |

| 佐々木　淳 | 臨床心理学 Ⅰ |
|---|---|
| アンケート結果を拝見し、精神病理についての授業内容に興味を持っていただけていたことが確認できて安心しました。これまでは精神病理と認知行動療法の話が主でしたが、２７年度からは臨床心理学全般の様々なトピックを扱う予定です。事前・事後学習も充実できるよう計画しようと思います。 | |

| 佐藤　眞一 | 行動学概論 |
|---|---|
| 学部１年生の行動学科目への入門の授業で，6名の異なる研究分野の教員がオムニバスで実施した。アンケートの結果は，おおむね平均以上の評価であったが，予習・復習をほとんどしなかった受講生が大半であったことと，シラバスがあまり有効でなかったという回答が３分の１程度あったことが反省点であろう。今年度から開始した授業なので，教員ごとに難易度や理解度が異なる部分があったかもしれない。しかし，独自に行ったアンケートでも受講生にはおおむね好評であり，学科目選択に役立つとの回答が多くみられた。次年度以降も工夫をしながら進めて行きたいと考えている。 | |
| 佐藤　眞一 | 臨床死生学･老年行動学 ・ 臨床死生学･老年行動学特講 Ⅱ |
| ３名の教員によるオムニバスの講義であったが，事前に内容が重ならないように打ち合わせて授業を行った。難易度，理解度などはおおよそ問題が無く，おおむね好評であった。質問の各項目は全て平均以上の評価であったが，予習・復習の時間に関する回答のみが平均的なレベルにとどまった。参考図書を提示したものの，予習・復習の時間が少なかったので，今後は課題提出などの工夫が必要であろう。 | |

| 澤村　信英 | 国際協力学 Ⅱ ・ 国際協力学特講Ⅱ |
|---|---|
| 英語で授業を行っているが、学部生も含め、十分に理解している様子であり、その結果がアンケートでも確認された。発展途上地域において研究を行う大学院生を想定した実践的な授業内容になっているため、大学院生の評価は好意的であるが、学部生のそれは平均的なものであった。おそらく、学部生には普遍的な知識を得たいという要望もあると思われるが、国際協力学という授業の性質上、それは少々難しい。本授業を通して、対象に対する敬意と共感、そして物事を批判的にみる習慣を身につけてほしいと期待している。 | |

| 三宮　真智子 | 教育コミュニケーション学 Ⅰ ・ 教育コミュニケーション学特講Ⅰ |
|---|---|
| 学部，大学院ともに，受講生の反応はおおむね良好であったが，次の２点が今後の課題である。<br>１）受講生の予習・復習時間が短い（大半が１週間当たり 30 分未満）。<br>ほぼ毎回，前回授業内容に関するミニテストを行い，受講生が復習時間を確保することを期待したが，意外な結果である。より難しい内容のテストや課題も取り入れていきたい。<br>２）授業内容の難易度について，「適切」が約８割，「やや易しい」が約２割という回答であった。<br>教育学系以外の受講生も多く，既習事項や理解度にはバラツキがあり，全員にとって適切な難易度を実現することは容易ではないが，若干難易度を高める方向に変えていきたい。 | |

| 篠原　一光 | 応用認知心理学 ・ 応用認知心理学特講Ⅰ |
|---|---|

この講義では認知心理学を応用して日常生活の中の様々な問題や社会問題について考えるという趣旨の内容を取り扱った。今年度はこれまであまり取り入れてこなかった受講者間での短時間の討議を取り入れるようにした。授業評価アンケートの結果、講義に関する評価は概ね良好ではないかと考える。問題点としては、予習、復習に当てた時間が非常に短いという結果になっている点である。来年度は授業終了時に課題を出すようにし、予習・復習を促すよう改善したいと考えている。

| 篠原　一光 | 行動学研究法 |
|---|---|

本講義は昨年度まで実施していた実験実習科目の心理学測定を、行動学概論と行動学研究法という２つの講義に分割して初めて実施したもので、実際の研究の方法論、研究実施のための基礎的な概念を講義することを主眼として実施した。授業アンケートでは全体的な評価は高かったものと思われる。問題点としては、予習・復習に充てられた時間が短かった点であげられる。また、自由記述では、レポート・課題等の負担が大きすぎる、教員が基本的に２回ずつ授業をするので１回欠席すると２回目の内容がわからず困るといった点の指摘があった。本講義はオムニバス形式の講義であり講義内容も幅広いものであるので、授業の内容ややり方をそろえることの困難はあるが、予習・復習のための課題を適切な量与えることなどの工夫が必要と考えられる。

| 志水　宏吉 | 教育文化学演習Ⅱ･学校社会学特講 |
|---|---|

今期は、例年より少数の受講生を対象として、個々のニーズに即した授業内容をかなりの程度提供できたのではないかと判断する。課題としては、学部生（3 回生）と院生（Ｍ１が主体）の両方が参加しているので、両者に同程度の満足感を与えるような「水準」をどこに設定するかという点があげられる。今後、よい「落としどころ」をさらに追究していきたい。

| 志村　剛 | 行動生理学 ・ 行動生理学特講 Ⅱ |
|---|---|

質問別得点分布をみると、ほぼ全体平均と重なるので、授業としては特別可もなく不可もなしと学生諸君には受け取られているようです。大学院との合併授業でありながら、なるべく広く浅くを心がけて授業を行っているので、大学院生の中にはやや物足りなさを感じる人がいたようです。ただ、人間科学部・人間科学研究科の中で、「心と身体」に関する基本的知識を、専門分野を志す学生以外にも知ってもらいたいという気持ちから、毎年同じような形で授業を続けている次第です。

今後も新しい知見を取り入れながら、古くからの「こころと脳」の問題を紹介して、学生諸君に「人間とはなにか」を考えるきっかけを提供していきたいと思います。

| 園山　大祐 | 比較教育制度学 |
|---|---|

出席率もよく、熱心にノートもとり、レポートも丁寧にまとめていただきました。
授業おわりのコメント票もたくさん書いていただきありがとうございます。可能な限り、コメントにも翌週答えさせていただきましたが、毎回全員にお答えできず申し訳ございません。

全体のアンケートの結果としては、予習、復習にかけた時間が少なかったのが残念です。
テキストを最後のレポート時にまとめて読まれたと思いますが、やはり毎回読んできたほうが授業も理解しやすいです。3 年次以降の授業参加の際には、ぜひ予習復習をしてください。

| 高田　一宏 | コミュニティ教育学 |
|---|---|
| 受講生にとってやや易しい内容だったようである。その分、よく理解できたと思うという回答は多かった。3 年配当ということを考えるともう少し理論的な話をした方がよいかもしれない。（自由記述はなし） | |
| **高田　一宏** | **教育文化学** |
| 自由記述に、内容が易しすぎた，理論や研究方法に関する話も聞きたかったとの趣旨の意見があった。学部二回生配当の講義なので，平易な内容にするよう心がけているが、その分、物足りなく感じた受講生がいたようである。レベルをもっと引き上げルことも考えた方がいいかもしれない。また、教室が狭すぎるとの回答もあった。来年度以降は、受講生の人数が予想より多い場合、教室変更をしたい。 | |

| 辻　大介 | コミュニケーション社会学 |
|---|---|
| 今年度も概ね高評価をもらい、うれしく思います。ただ、例年よりも欲張って結構内容を詰め込んだためか、「もう少しゆっくり進んでもよかったのではないか、ややかけ足気味に感じた」というコメントもいただきました。パワーポイント等を使ってできるだけ効率的に講義を進めるようにしたつもりではあったのですが、確かに時間が足りない感じもありました。アンケート結果からは「予習・復習にあてた時間」が少ない傾向もうかがえますので、授業時間外に読んでおくプリントを配布して、講義内容の一部はそちらにまわす等、さらに工夫していきたいと思います。 | |

| 友枝　敏雄 | 理論社会学 ・ 社会学理論特講 |
|---|---|
| 学生の自由記述に答える形で記します。<br>1．シラバスと違う講義内容になったのは、シラバス作成が前年度の 2 月、それから半年経っていること、前期の社会学説史の講義内容を勘案しながら変更しました。<br>2．学期末にレポートを書いてもらいましたので、これで十分に受講生が学習したかどうかがわかりました。ただ数回、小テストをして受講生の理解度を、測定するのもよいかもしれません。<br>3．社会学理論の中身の深いところを講義してもよいのですが、やはりまったく社会学を知らない 2 年生、3 年生を念頭におくと、社会学理論全般を見渡せるような講義になります。<br>4．講義のやり方として、ある程度板書は必要ですが、もう少し、資料配付を増やすのもよいかもしれません。ただ私の経験では、資料を配布すると受講生が安心して講義を集中しなくなることがこれまでありました。 | |

| 中川　敏 | 人類学理論 ・ 人類学理論特講 |
|---|---|
| 「意見・要望」を次回の授業の参考にします。 | |

| 中澤　渉 | 教育環境学概論 |
|---|---|
| 全体としてまずまずの評価だったのではないかと思うが，この授業に関連した学習時間が非常に少ない点が気になるところである。オムニバス形式の授業なので難しいところはあるが，受講生の関心をひきだすような文献の紹介など，実質的な学習に結び付くような工夫に努めたい。 | |

| 中道　正之 | 霊長類心理学 ・ 比較行動学特講Ⅱ |
|---|---|
| 大学院生、学部生のどちらも良い授業かどうかの項目で、平均 4.5 前後の評点になっていたので、授業にはおおむね満足してもらったと思っている。ただ、予習・復習の時間がほとんどなかったこと、難易度の問いに、難しいという回答がほとんどなかったという事実は、反省点である。授業内容に興味を持ち、さらに、自ら関連書物を読んだり、一次情報としての論文を購読したりするレベルまで、学生の関心を広げ、高める工夫も必要であると、感じている。<br>授業中には、学生に対して質問したり、意見を聞いたりするようにしていた。双方向授業とまでは言えなくても、学生からの発言機会を増やすように努めた。発言してくれる学生が固定する傾向にはなったが、それでも、学生の意見を聞きながら授業を進めることは、教員(中道)にとっても多様な視点、観点を得ることにつながり、ありがたかった。 | |

| 中山　康雄 | 科学哲学 ・ 科学哲学特講 |
|---|---|
| 今回の講義では、非常に関心の高い学生と関心の低い学生に参加者が二分されたように思う。講義の中での質問やコメントそれから試験の答案などで示唆的なものは多くあり、講義から自分自身も学ぶことができたと考えている。今後、積極的な姿勢で講義に参加する学生が増えていくような講義を目指していきたい。 | |

| 西森　年寿 | 教育工学Ⅰ・コミュニケーションメディア特講Ⅰ |
|---|---|
| 昨年度比としては、全体的に数値が低下しているかと思います。基本的には調査紙に移行して回答者の偏りが解消されたためだと推測しています。ただし、今回の授業は内容の項目や順序など、かなり当初のシラバスから変更がありました。このため、期待されていた内容と食い違いがあったかも知れず、これが数値低下の背景にあるかもしれません。一方で、個人的には昨年までとは異なる新しい内容も試せたので、それなりの手応えは感じています。<br>全体的な満足度に関わる部分では十分な評価をもらえていると思いますが、まだまだ資料準備などに手がまわらずに、逃げている部分などが自分としては気になっています。今年試した内容を洗練させるなど、パワーアップしていきたいと考えています。回答ありがとうございました。 | |

| 檜垣　立哉 | 基礎人間科学概論 |
|---|---|
| 出席率、満足度ともに想定よりよかった。三人の教員のオムニバスなので教え方その他に偏りがあるのは致し方がないがパワポや資料のあり方などそろえていきたいとおもう。 | |
| **檜垣　立哉** | **現代思想論 ・ 現代思想論特講** |
| 出席率、満足度ともにまあまあよかった。難易度や興味の持ち方にばらつきがあるのはやむをえないが、いずれにせよまあまあのところかと思う。人数が大きく双方向的なものが、コメントシートの代表的なもののコピーとそれへのコメントということでしかできなかったが、これにはプラスの評価もあったのでよかった。もう少し人数が少ないと個別に対応できるがやむをえない。パワポの見方など年々工夫はしているが、いろいろ理解が容易なものにしていきたいと思う。 | |

| 藤川　信夫 | 教育思想史 ・ 教育思想史特講 |
|---|---|
| 授業内容について、興味・関心を高める工夫が必要であると感じた。基本的に講義形式で授業を進めているが、質疑応答の時間を長めに取るなどして、理解度とともに興味・関心を高めるなど試みてみたいと思う。 | |

| 牟田　和恵 | ジェンダー論 ・ ジェンダー論特講 |
|---|---|
| 学部・大学院とも、おおむね肯定的な評価が得られたのは良かった。今年度は例年以上に、テーマを絞った内容の授業を行ったが、自由記述からは、その点については賛否があることが伺え、今後の課題としたい。また、自習を促す工夫をさらに行っていきたい。 | |

| 村上　靖彦 | 哲学的人間学特講 |
|---|---|
| 事前学習を考慮できない形式になっていたことを反省しています。今後工夫したいと思います。<br>当初の予定通りに議論への参加を促せなかった部分も反省しております。 | |

| 森川　和則 | 基礎心理学 ・ 基礎心理学特講 II |
|---|---|
| 授業改善アンケートの結果に特に問題点はありませんでした。総じて好評であったと言えます。昨年度までの KOAN ウェブ・アンケートと今年度のマークシート・アンケートでは回答率が大きく異なるので、一概に比較はできませんが、昨年度より総合満足度評価が平均値に近くなりました。一つの原因としては、学期の終盤に時間が足りなくなって講義を急いだため十分な解説ができなかったことが考えられます。いろいろ内容を盛り込みすぎて、15 回の授業では話しきれなくなったのです。来年度からは内容を取捨選択して、最後まで余裕をもって解説できるようにしたいと思います。 | |